

BI-3-iii-07	応用分子生物学B	第3学年	後期 選択必修	0.5単位
担当者	輪千 浩史			
一般目標 (GIO)	分子生物学を薬学領域で応用できるようになるために、遺伝子操作に関する基本的知識、技能、態度を修得する。			
到達目標 (SBOs)	1. 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。 2. 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。			
受講心得・準備学習等	遺伝子操作に必要な基本情報について理解を深めることを心がける。			
事後学習・復習等	教科書と授業ノートを中心に理解を深めることを心がける。			
オフィスアワー	平日（月～金）午後5時～6時			

授業の形式と各回の内容

授業の形式		講義・演習
回	項目	内容
1	遺伝子工学の医療への応用	遺伝子改変動物の作製
2	遺伝子工学の医療への応用	遺伝子改変動物の解析
3	遺伝子工学の医療への応用	遺伝子改変動物と医療応用
4	遺伝子工学の医療への応用	ゲノム編集の基礎
5	遺伝子工学の医療への応用	ゲノム編集と医療応用
6	遺伝子工学の医療への応用	ゲノム編集と医療応用

成績評価の方法	小テスト（50%）、演習（50%）の結果を基準に評価する。
成績評価の基準	小テスト（50%）、演習（50%）の合計点が原則60%以上を合格とする。
教科書	金田典雄、伊藤進 編集「薬学のための分子生物学」(廣川書店)
参考書など	講義中に紹介する。